

通信紙「ぴっけるぴっけ」2008 年初春号

財団法人日本野鳥の会 鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ
〒085-1205 北海道阿寒郡鶴居村中雪裡南 TEL : 0154-64-2620 FAX : 0154-64-2239
e-mail : tancho_sanc@wbsj.org URL : http://www.wbsj.org
レンジャー 音成邦仁／渡邊美沙／伊東大輔／大熊千晶

今シーズンの越冬期が間もなく終わろうとしています。つがいは盛んに求愛ダンスなどの繁殖行動をし、親からひとり立ちした幼鳥たちも見られます。タンチョウの行動を見ながら、季節の移り変わりを実感しています。(0)

今年のタンチョウの確認数

北海道庁では、毎年、12月と1月にタンチョウの生息状況一斉調査を行っています。2006年1月には、この調査で、はじめて1,000羽を超えるタンチョウが確認されました。2007年12月の調査では、12月としては過去最多の948羽が確認されました。そしてこのほど、今年度2回目となる1月の調査結果が発表されました。結果は799羽でした。今回の調査日は、終日強風が吹き、給餌場に集まるタンチョウが極端に少なかったため、確認できる数も少なくなっていました。残念ながら、今年度は2005年度、2006年度に確認された1,000羽には到達しませんでした。

しかし、タンチョウの生息数が減少しているわけではなさそうです。釧路市内に拠点をもち、NPO法人タンチョウ保護研究グループの独自の調査によれば、現在結果の集計中ながら、タンチョウの確認数はすでに1,000羽を超えているそうです。

今回の北海道庁の調査結果は、調査日が悪天候だったため、調査員の目につく場所に集まるタンチョウが少なかったことが大きく影響したと言えそうです。引き続き、タンチョウの個体数は安定して1,000羽以上が維持できていることは間違いありません。(0)

気になるタンチョウたち

サンクチュアリに飛来しているタンチョウの素顔をご紹介します。(0)

T25(1991年生まれ オス 明治乳業野鳥保護区牧の内)で繁殖)

昨年7月に明治乳業株式会社との協定により設置した「明治乳業野鳥保護区牧の内」で、以前から繁殖するT25。今冬は、給餌場におけるタンチョウのデントコーン採餌量調査を実施していますが、その対象個体として12月から行動を追っています。他の対象個体に比べると大食漢で、2月4日の調査では、958粒のコーンを食べました。重さに換算すると約300g。これは、必要



釧路市立鶴野小学校
佐藤功佑くんの作品

な栄養を十分に摂取していると考えられ、逆に言うと給餌に大きく依存していることが伺えます。来シーズンも元気に飛来し、引き続き、同調査の対象個体になってほしいものです。

19Pと20P(2003年 藤田野鳥保護区酪陽生まれ オス兄弟)

生まれた年に2羽とも冬を越せること自体難しいことですので、そろって5年目を迎えるという例は数えるほどしかありません。昨シーズンは、2羽ともつがいになりました。

ところが、20Pは昨年ペアになった年上の66V(2000年生まれ)と別々に飛来し、新たな相手と行動しています。また19Pも飛来当初は1羽で行動していましたが、そのうち、新しい相手なのか、よりを戻したのか、ペアで行動するようになりました。兄弟だと性格や行動まで似てくるのでしょうか？ 来シーズンはどんな行動を見せてくれるか楽しみです。

08V(1996年生まれ オス)

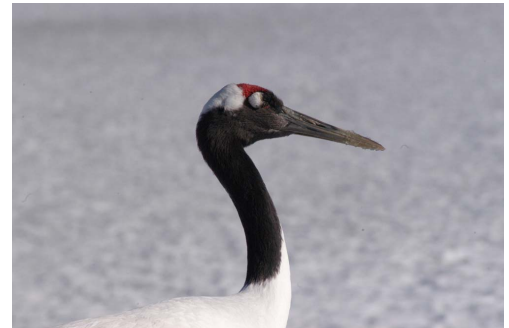
鶴居村で生まれた通称「暴れん坊」。盛んに他のペアにけんかを吹っかけて、負けると別の弱そうなタンチョウに八つ当たりをするというタンチョウです。ところが今シーズンは、「暴れん坊」ぶりがすっかりなりをひそめました。実は11年目にして、はじめてヒナを連れてきたのです。父親になると落ち着くのでしょうか？

飛べないタンチョウ「白目」と「トホ」

サンクチュアリには飛べなくなってしまったタンチョウが2羽来ています。ねぐらとなる川とサンクチュアリを歩いて移動しています。しかも、今シーズンで4年になります。

「白目」は、右目の脇の白い羽毛が目立ち、観察場の近くで行動するので、すぐに存在に気づきます。他のタンチョウに追いかけられたり、時には相手を威嚇したりと見ていて飽きることはありません。「トホ」は、右翼がたれさがっていることで、識別できます。「トホ」は、ペアになっていて、昨シーズンはヒナを連れてきました。

タンチョウにとって飛べないことは大きなハンディですが、それでも4年も生き続け、子どもまで育ててしまうなんて、すごい生命力ですね。



目の横の白い羽毛が特徴の「白目」

2,3月の主な活動

大学生ボランティアのワークキャンプ

毎年、春と夏に首都圏の大学生を中心に自然保護活動続ける「Field Assistant Network(フィールド・アシスタント・ネットワーク)」の活動を受け入れています。1週間程度、サンクチュアリでボランティア活動をしていただくことで、サンクチュアリとしては貴重な労力を得ることができます。参加者は、自然保護の最前線での活動を通じて貴重な体験ができ、双方にとって意義深い活動になっています。

2月15日から21日までの1週間、7名の大学生が訪れ、主に「給餌場におけるタンチョウの採餌量調査」に協力いただきました。20日に開かれた地域住民との懇親会では今回の活動報告もしてもらい、地域の方々にサンクチュアリの活動を知ってもらう機会にもなりました。参加者にとって今回の活動が、今後も自然保護に関わる活動を続けるきっかけになれば、さらに素晴らしいことだと思います。(0)



厳寒の中、採餌量調査を実施する参加者たち

酪農地帯に生息するタンチョウとの共生に向けて

環境省事業を受託し、鶴居村下久著呂地区のタンチョウ生息状況調査を12月から2月まで実施しました。同地区は、タンチョウのための給餌場はありませんが、牛舎周辺をはじめとする農家敷地内を餌場として利用するタンチョウが、30羽前後も生息していることがわかりました。しかも、農家への依存が年々強まっている傾向が伺え、牛舎内への侵入や、家屋の窓ガラスをつつくなどの問題が発生しています。引き続き、鶴居村職員や地域の方々と協力しながら、タンチョウと酪農の共存に向けた活動を継続していきます。

また、釧路管内の浜中町では、国営事業の一環で、家畜糞尿を液状のまま貯蔵しておく「スラリー」が増設されています。一方で、2004年以来、毎年確認されているタンチョウのスラリー転落事故の増加が懸念されています。さらに近年、浜中町内で生息するタンチョウも増加傾向にあることから、農家周辺で食害などの問題が拡大する可能性もあります。

そこで、JA 浜中町の協力を得て、酪農家全戸を対象としたアンケートを配布するとともに、2月19日には、多くの酪農家が集まる場に赴き、聞き取り調査を実施しました。現在80件ほどのアンケートが回収でき、ほとんどの農家敷地内にタンチョウが飛来していること、タンチョウが家畜を威嚇することを問題視する声が多いことなどがわかりました。この結果、今のうちからタンチョウと人との距離を保つ活動を始めることの必要性を感じました。来年度以降、浜中町での普及啓発活動にも力をいれていきます。(0)

タンチョウ・ティーチャーズガイド講習会の実施



講習会の実施の様子

2月28日、3月2日の2日間で、環境省釧路自然環境事務所が主催する、釧路湿原パークボランティア向けの研修会が開かれ、レンジャーはその講師として関わりました。参加者は2日間あわせて31名でした。内容は、当会で開発した「タンチョウ・ティーチャーズガイド」のプログラムの体験と、参加者によるプログラムの実演を中心に行いました。

今回の参加者は、主に湿原ガイドなどを行っている方々でしたので、「タンチョウ」を「湿原」におきかえて、プログラムを作ってもらい、そのプログラムを実演してもらいました。今後、「タンチ

ヨウ・ティーチャーズガイド」のプログラムが、湿原ガイドの中でも活かされ、湿原の保全やタンチョウ保護に寄与されることを期待しています。(0)

タンチョウの写真募集中！

現在、2008 年度に製作するオリジナル切手シートに使うタンチョウの写真を募集しています。このフォトコンテストは、2001 年度からコニカミノルタホールディングス(株)の協賛をいただき、行っているものです。これまではコンテストの優秀賞作品でポストカードを製作していましたが、来年度はオリジナル切手シートを製作することになりました。また、「コニカミノルタ・タンチョウチャリティフォトコンテスト入賞作品展」につきましては、切手デザインに使われた 8 点に、入賞 7 点を加えた 15 作品により開催します。実施にあたっては、引き続き、コニカミノルタホールディングス(株)のご協賛をいただけることになりました。フォトコンテストは 4 月末日まで実施していますので、多くの方々からのご応募をお待ちしております。ご応募の詳細につきましては、サンクチュアリホームページをご覧ください。完成予定の切手シートは、ご希望の方に 1 シート 2,000 円で頒布します。ご期待ください！(0)

レンジャーより「今年度振り返って」

音成邦仁(おとなり くにと/7 年目 チーフレンジャー)

開設 20 周年の節目となる年度が間もなく終わろうとしています。例年の活動に加えて、20 周年事業にも取り組み、大変有意義な一年を過ごすことができました。これも、皆さまからのご支援があったからこそと改めて感謝しています。来年度以降も、さらなるタンチョウ保護の推進に向けて活動を続けていきたいと思いをします。

渡辺美沙(わたなべ みさ/3 年目)

今年度は、開設 20 周年事業を通して、色々な方々に出会うことの大切さ、ご支援・ご協力をいただくことの有り難さをこれまで以上に実感することができました。忙しいながらも得る事の多い一年だったと思っています。サンクチュアリにとって、また、千羽を超えたタンチョウの保護活動にとって、節目であるこの年に携われたことに感謝しています。

伊東大輔(いとう だいすけ/2 年目)

早いもので、鶴居に赴任してからもうすぐ 2 年となりました。この間は、とくにサンクチュアリ開設以来の活動やこれからを整理する重要な業務に携わり、多くの方と接して貴重な経験を得ることができました。これからもこの経験を活かし、活動を続けていきたいと思いをします。

大熊千晶(おおくま ちあき/1 年目)

鶴居村に来て初めての冬も残り僅かとなりました。四季それぞれのタンチョウの魅力に触れ、そのタンチョウを通じて多くの方に出会い、そして支えられた 1 年でした。タンチョウを取り巻く人の絆とその暖かさに強い力を感じています。皆さまのご声援に恥じぬよう活動に取り組んでいきたいと思いをしますので、今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。